令和7年度
（令和6年10月～令和7年9月）

環境経営レポート

八幡自動車工業

ロゴマークの説明

・グリーンの色は環境への優しさをイメージしています
・センターの白線は永遠に続く道をイメージしています
・イニシャルのYは工具で技術をイメージしています
・社名のグレーはエンジンのメタリックをイメージしています

作成日：令和8年1月10日

目次

１．組織の概要　1ページ

２．経営理念･環境経営方針･環境経営活動･環境経営目標　2ページ

３．実施体制　3ページ

４．現状での改善課題と改善活動の行動指針　4ページ

５．環境経営目標　5ページ

６．環境経営目標の実績　6ページ

７．環境経営活動計画の取組結果とその評価と次年度の取組内容　7ページ

８．環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、控訴等の有無　8ページ

９．代表者による全体評価と見直しの結果　9ページ

１．組織の概要

１ 事業者名および代表者名
有限会社　八幡自動車工業
代表取締役　井上　邦広

２ 所在地
本社事業所：大分県大分市大字横瀬４００番地の１
出先事業所：UDトラックス㈱大分支店内工場（但し管理の範囲からは除く）

３ 環境管理責任者氏名および担当者、連絡先
責任者　　代表取締役　井上　邦広
担当者　　業務

連絡先　　TEL:097-542-3388
FAX:097-542-1150
E-mail:info@yahatacars.com
URL:http://www.yahatacars.com

４ 事業内容
自動車の板金塗装並びに整備
自動車の販売
自動車レンタル業
自動車部品の販売
損害保険代理業
生命保険の募集に関する業務
上記各号に附帯する一切の業務

５ 事業規模

活動規模	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
売上高	百万円	324	341	366	376	408
従業員	人	26	27	27	29	29
本社事業所	人	23	24	24	27	26
延べ床面積	㎡	2595.81	2595.81	2595.81	2595.81	2595.81

６ 事業年度
期首　　10月1日
期末　　9月30日

７ 対象範囲
本社事業所での全活動

２．経営理念・環境経営方針・環境経営活動・環境経営目標

◆経営理念

自動車業界を取り巻く環境は、経済の成長、科学の進歩とともに大きく変化しています。ますます便利になった自動車は、地球温暖化の元凶とされるCO_2を多く排出します。そこで各自動車メーカーはCO_2を削減させるためにハイブリッド車や燃料電池車(FCV)など次世代自動車を開発し提供しています。しかしまだ多くの自動車はガソリンや軽油などの化石燃料を必要としています。そこで適正なメンテナンスを行うことは、私たち整備工場はもちろんのことユーザー様にとっても社会的義務であるといえます。またCO_2の削減を計るということは、省燃費につながり経済的なメリットを得ることができます。そこで私たち八幡自動車工業の持てる技術と経験、ネットワークや情報をフルに活用してユーザー様に効果的なサービスを提供することは私たちに課せられたミッション（使命）です。そして、その使命を果たすことによって美しい自然を未来の子供たちに残し、ユーザー様に喜ばれ、そして企業として成長することで社員や家族の夢を実現させることができると確信しています。

「環境に優しく、お客様に喜ばれ、社員に愛される会社を目指す。夢の実現へ!!」

◆環境経営方針

自動車が地球環境に及ぼす影響は製造過程からその使用に至るまで非常に大きいといえます。そこで自動車整備を任されている事業者として地球環境の保全、さらに向上を目指すために環境経営目標を定め、達成に向けた環境活動を推進いたします。

◆環境経営活動

１ 事業活動に関する環境法規およびその他の要求事項を遵守します。
２ 環境経営目標を定めて、定期的に見直し、継続的改善に取り組みます。
３ 環境負荷の低減、地球環境を保全するために次の活動を推進します。
　ⅰ） 報告・連絡・相談・声掛け・指示
　ⅱ） 車輌の入れ替え・駐車
　ⅲ） 部品手配・イラスト手配
　ⅳ） 5S運動
　ⅴ） エコ活動
４ 環境経営方針を全従業員に周知させるための教育を積極的に行います。
５ 環境経営方針はすべての方に開示します。

◆環境経営目標（環境負荷）

１ 二酸化炭素排出量の削減
２ 電気使用量の削減
３ ガソリン使用量の削減
４ 軽油使用量の削減
５ 廃棄物排出の削減
６ 水使用量の削減
７ グリーン製品の購入
８ 環境啓発活動
９ 化学物質の適切な管理

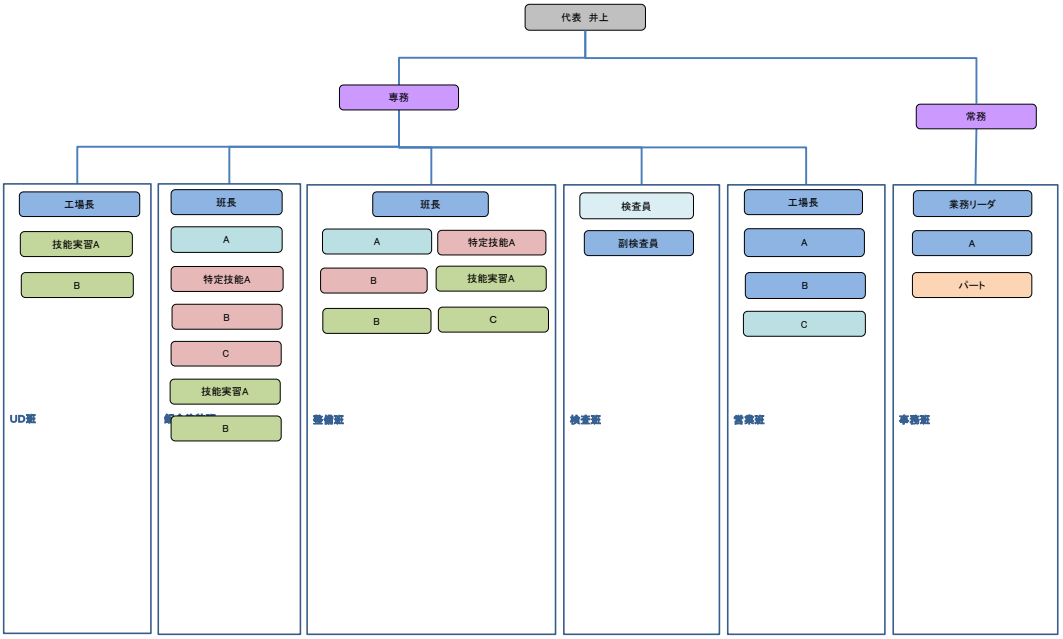
平成25年9月1日

有限会社　八幡自動車工業
代表取締役　井上邦広

3. 実施体制

役割と責任　　架装班　　整備班

代表者	井上（邦）	①環境経営の最高責任者 ②環境方針の制定、環境目標及び環境活動の承認 ③環境経営システムの評価、全般的な見直し ④環境活動計画の承認 ⑤環境管理責任者の任命
環境管理責任者	井上（邦）	①環境経営システム全体の構築・運営の責任者 ②環境経営システム実績等の代表者への報告 ③環境目標、環境活動及び環境活動計画書の確認、指示 ④環境目標、環境活動計画の進捗確認と修正の指示・実施 ⑤環境経営システムに関する問題の明確化と記録の総括 ⑥環境情報の外部への連絡 ⑦環境活動レポートの作成 ⑧教育と訓練の総括 ⑨緊急事態発生時の判断
担当者	井上（孝）	①環境管理責任者の代行及び環境活動の全社的な推進 ②環境データーの取りまとめ（集計） ③環境文書発行・管理の実務 ④その他、EA21事務全般
社員		①環境方針、目標の理解 ②環境活動の理解と実施 ③環境法規制の遵守 ④緊急事態の予防策、対応策の実施 ⑤内部コミュニケーションの実施 ⑥改善の為の提案



4. 現状での改善課題と改善活動の行動指針

2024年10月更新

☆報告・連絡・相談（声かけ・指示） ■不具合報告、作業終了報告、検査ライン完成報告 （問題点） 作業報告・日報が正確でない。 ユーザーに対する共有意識が薄い―自分は関係ない？	影響） 報告をもとに手配する必要部品や社外外注への連絡が遅くなるため完成が遅れる。日報をもとに作成される請求書に洩れや誤りが発生する。また作業実績評価が正確に行われず人事考課に影響が出る。直接かかわらないユーザーや仕入れ先への関心がないため対応が遅れる。	環境に及ぼす影響） 完成時間が遅くなることで必要以上に電気や燃料などエネルギーの消費が増える。 追加作業などで廃棄物や塗料などの化学物質の使用量が増える。	改善によって期待できる効果） ユーザーに対して完成時間をできる限り早い段階で予定より早い時間に納車する。 信用と信頼関係が深まることで他社で車検・修理をしている車両を弊社の受注や新規取引先など紹介が期待できる。	環境に期待できる効果） CO_2排出量の削減 廃棄物の削減 化学物質排出量の削減	改善策） ⅰ）翌日以降の作業予定を把握しスケジュールを立て朝から行動する。 ⅱ）予定通りに行かない場合は早めに相談を行い問題解決する。 ⅲ）来社や問い合わせがあった場合は誰でも対応できるように情報を共有する。 ⅳ）週・月次の入庫予定・受注状況を共有しムリ・ムダのない工程管理を行う。
☆安全衛生 ■事故・けが・病気を防ぐ （問題点） 社内で移動中の接触事故や社員個人の車両事故の発生。 安全に対する意識不足。 社内感染ーコロナ・インフルエンザ	影響） ユーザーからの信頼を損なう。 けがや病気で本人が担っていた業務が遅れ作業工程に影響を及ぼす。	環境に及ぼす影響） 完成時間が遅くなることで必要以上に電気や燃料などエネルギーの消費が増える。	改善によって期待できる効果） 安心して業務が行える社内環境が構築される。	環境に期待できる効果） CO_2排出量の削減	改善策） ⅰ）安全第一を最優先する。 ⅱ）事故やけがなどが発生した場合は緊急処置を行い、その後速やかに上司に報告する。 ⅲ）事故原因等を訴追し発生原因と対策を講じ社内で共有する。
☆部品業務 ■部品手配とイラスト手配の方法 （問題点） 仕入に対する原価意識が薄い。 使用されず廃棄される部品がある。	影響） 必要以上の部品や材料が工場内に長期保管されるため部品棚が整理されず管理ができない。 また経済的損失も発生する。	環境に及ぼす影響） 不良在庫となり廃棄処分される。	改善によって期待できる効果） 必要なものがあるべきところにあるため作業がスムーズに行える。	環境に期待できる効果） CO_2排出量の削減 廃棄物の削減	改善策） ⅰ）レス率や配達・送料などを考慮し、売上・利益に対する意識・行動を心掛ける。 ⅱ）長期保管されている部品や材料をチェックし転用ができないか検討する。
☆5S運動（整理・整頓・清掃・清潔・躾） ■いらない物が放置、工場内がかたづいていない （問題点） 作業服や工場床が汚い。 壊れた工具が放置されている。	影響） 来訪者へ与えるイメージがよくない。 特種工具など使おうとしたら使えないため作業ができない。	環境に及ぼす影響） 完成時間が遅くなることで必要以上に電気や燃料などエネルギーの消費が増える。	改善によって期待できる効果） 来店されたお客さんにきれいな工場でスムーズな作業を行うことでイメージが良くなる。	環境に期待できる効果） 廃棄物の削減 環境への意識向上	改善策） ⅰ）終業前20分の清掃で整理整頓を行い不具合があった場合は速やかに報告する。 ⅱ）常に清潔な作業服を着用する。汚れた際の着替えを用意する。 ⅲ）月次で工具管理台帳によるチェックを行う。
☆消耗品（光熱費） （問題点） ウエス、洗剤、パーツクリーナー、塗料関係、吸着マット、ボルト類、各鋼材類、ボデーシーリング等の消耗品のムダ使いがある。 人の居ないところでの電気の点けっぱなし、エアの洩れっぱなし、水の出しっぱなしがある。	影響） 消耗品や水・電気・エア漏れなどの不具合により必要以上の経費がかかる	環境に及ぼす影響） 不要な在庫などの増加で廃棄物が増加する。 電気や水などの消費が増える。	改善によって期待できる効果） 5Sと共にエコ活動を強化することにより社員全員で稼いだ売上からの出費が少なくなる	環境に期待できる効果） CO_2排出量の削減 廃棄物の削減 水使用量の削減 グリーン購入の増加 環境への意識向上	改善策） ⅰ）エア洩れのホース修理及び未使用時のバルブの閉の徹底 ⅱ）不在時及び昼休み時の電気消灯を行う。（事務所内、工場内の電気スイッチ部に節電ステッカーを貼る。 ⅲ）オイル、灯油、パーツクリーナー、ボデーシーリング、吸着マット、洗剤等の在庫が少ないと判断したら速やかに報告する。 ⅳ）ウエスは、整備、板金、塗装のウエス置場にハサミを設置（無くならないようにハサミをヒモで固定する） ⅴ）自宅で要らなくなった衣類を持って来てウエスとして使用する。 ⅵ）消耗品置場に貼り紙をして一人一人のエコ意識を高める。 ⅶ）裏紙の再利用でコピー用紙の使用量を減らす。

5. 環境経営目標

環境目標	単位	場所	基準年 H29年10月～H30年9月 ＜実績値＞ 年度の総量	6年度 R5年10月～R6年9月 ＜実績値＞ 年度の総量	7年度 R6年10月～R7年10月 ＜目標値＞ 年度の総量	8年度 R7年10月～R8年9月 ＜目標値＞ 年度の総量	9年度 R8年10月～R9年9月 ＜目標値＞ 年度の総量	10年度 R9年10月～R10年9月 ＜目標値＞ 年度の総量
CO_2排出量削減	kg-CO_2	本社事業所	69,044	50,286	49,783	49,280	48,777	48,275
電気使用量削減	kWh	本社事業所	76,283	61,783	61,165	60,547	59,930	59,312
LPガス使用量削減	kg	本社事業所	91.08	46.00	45.54	45.08	44.62	44.16
ガソリン使用量削減	ℓ	本社事業所	7,512	5,088	5,037	4,986	4,935	4,884
軽油使用量削減	ℓ	本社事業所	6,211	3,772	3,734	3,697	3,659	3,621
廃棄物排出量削減	t	本社事業所	23.00	26.00	25.74	25.48	25.22	24.96
水使用量削減	m^3	本社事業所	300	513	508	503	498	492
化学物質の管理	kg	本社事業所	2,127	787	779	771	763	756
売上実績	千円	本社事業所	235,135	34,793	35,141	35,492	35,847	36,206
入庫台数	台	本社事業所	3,951	3,035	3,065	3,096	3,127	3,158

（注記）　電気の二酸化炭素排出係数は2017年度の九州電力の二酸化炭素調整後排出係数0.463kg-CO_2/kWhを使用
削減対象の数値目標は、実態に合わせえて6年度を基準にして前年度目標値-1%とする。
その他の目標課題は、達成目標値を示す。

6-1. 環境経営目標の実績

環境目標	単位	場所	6年度 R5/10～R7/9 実績値	7年度 R6/10～R7/9 目標値	7年度 R5/10～R7年 実績値	目標達成の判定
二酸化炭素　排出量削減	kg-CO_2	本社事業所	50,286	49,783	55,320	×
		(目標削減値)		503	-5,034	
電気使用量　削減	kWh	本社事業所	61,783	61,165	68,896	×
		(目標削減値)		618	-7,113	
LPガス使用量　削減	kg	本社事業所	46	46	48	×
		(目標削減値)		0	-2	
ガソリン使用量削減	ℓ	本社事業所	5,088	5,037	5,172	×
		(目標削減値)		51	-84	
軽油使用量　削減	ℓ	本社事業所	3,772	3,734	4,372	×
		(目標削減値)		38	-600	
廃棄物排出量　削減	t	本社事業所	26	26	46	×
		(目標削減値)		0	-20	
水使用量　削減	m^3	本社事業所	513	508	531	×
		(目標削減値)		5	-18	
化学物質の管理	kg	本社事業所	787	779	1,415	×
		(目標削減値)		8	-628	
売上実績	千円	本社事業所	34,793	35,141	36,819	○
		(目標増加額)		348	2,026	
入庫台数	台	本社事業所	3,035	3,065	3,678	○
		(目標増加数)		30	643	

（注記）　実績値及び目標値は、期間の実数合計値とする。

7. 環境経営活動計画の取組結果とその評価と次年度の取組内容

1. 改善活動の取り組み結果と評価

1）改善活動

報連相	ⅰ）翌日以降の作業予定を把握しスケジュールを立て朝から行動する。
	ⅱ）予定通りに行かない場合は早めに相談を行い問題解決する。
	ⅲ）来社や問い合わせがあった場合は誰でも対応できるように情報を共有する。
	ⅳ）週・月次の入庫予定・受注状況を共有しムリ・ムダのない工程管理を行う。
安全衛生	ⅰ）安全第一を最優先する。
	ⅱ）事故やけがなどが発生した場合は緊急処置を行い、その後速やかに上司に報告する。
	ⅲ）事故原因等を訴追し発生原因と対策を講じ社内で共有する。
部品業務	ⅰ）レス率や配達・送料などを考慮し、売上・利益に対する意識・行動を心掛ける。
	ⅱ）長期保管されている部品や材料をチェックし転用ができないか検討する。
5S運動	ⅰ）終業前20分の清掃で整理整頓を行い不具合があった場合は速やかに報告する。
	ⅱ）常に清潔な作業服を着用する。汚れた際の着替えを用意する。
	ⅲ）月次で工具管理台帳によるチェックを行う。
エコ活動	ⅰ）エア洩れのホース修理及び未使用時のバルブの閉の徹底
	ⅱ）不在時及び昼休み時の電気消灯を義務付ける。（事務所内、工場内の電気スイッチ部に節電ステッカーを貼る。
	ⅲ）パーツクリーナー、ボデーシーリング、吸着マット、洗剤等の消耗品出荷ノートを作り使用者、使用数の記載をする。
	ⅳ）ウエスは、整備、板金、塗装のウエス置場にハサミを設置（無くならないようにハサミをヒモで固定する）
	ⅴ）自宅で要らなくなった衣類を持って来てウエスとして使用する。
	ⅵ）消耗品置場に貼り紙をして一人一人のエコ意識を高める。
	ⅶ）裏紙の再利用でコピー用紙を節約する。

2）取組結果

	項目	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	総合評価
報連相	ⅰ）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ⅱ）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ⅲ）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ⅳ）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
安全衛生	ⅰ）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ⅱ）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ⅲ）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
部品業務	ⅰ）	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	ⅱ）	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
5S運動	ⅰ）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ⅱ）	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	ⅲ）	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○
エコ活動	ⅰ）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ⅱ）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ⅲ）	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	ⅳ）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ⅴ）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ⅵ）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ⅶ）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

2. 次年度への取り組み

環境経営計画は継続し、目標達成のために下記の点を重点項目とする。
＊報告・連絡・相談･･･発生したトラブルに適切な対処を行う事の重要性を全員が認知する
＊安全衛星･･･社用車の管理、全社員で安全運転を心掛ける　感染症への予防接種を推奨する
＊5S運動・エコ活動･･･グループ、班ごとに担当エリアを設け目標設定する。（継続
＊エコ活動･･･写真・画像などを印刷せずにデータ共有する。請求書・DMをメール配信することで郵送代や紙の使用量を減らす（新規　＊2024年更新さ
れた改善計画を全社員で共有し改善に向けた行動を行う（継続　＊2023/12より毎日17:30より
全員で共用工具のチェック工場内の清掃、片づけを行う（継続　＊2023/12より17:30から翌日以降の作業予
定をフロント・営業・現場リーダーの合同で確認、打合せ（継続

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、控訴等の有無

承認	作成

作成日：2013年9月15日

改訂日：2017年2月1日

遵守評価日：2024年1月10日

法規制等	適用内容	対象設備、施設	遵守事項 （法規制/自主規制）	頻度等	実施部門	遵守評価	コメント
家電リサイクル法	テレビ、（小型）エアコン使用	テレビ、	1. リサイクル料支払い（発生時のみ）	支払い時	総務部	○	該当なし
PCリサイクル法	パソコン、（周辺機器）使用	家庭用エアコン パソコン類	2. 廃棄時の適正処置（発生時のみ）	廃棄時	総務部	○	H27.8.8
自動車リサイクル法	社用車の適切な廃棄	社用車	1. リサイクル料支払い（発生時のみ）	支払い時	総務部	○	該当なし
			2. 廃棄時の適正処置（発生時のみ）	廃棄時	総務部	○	該当なし
廃棄物処理法	産業廃棄物の保管	産業廃棄物置場 ・廃プラ、金属くず	1. 表示板の設置	設置時	管理部	○	
	委託契約書	委託業者	1. 委託契約書（書面）	契約時	総務部	○	
	マニフェスト伝票管理	委託業者	1. マニュフェストの発行、管理	処理委託時	総務部	○	
			2. 各票の受領確認	発行後	総務部	○	
			3. 管理票交付状況の報告	1回／年（報告）	管理部	○	
騒音規制法	騒音防止対策 （騒音規正法） 原動機：7.5kw以上	コンプレッサー 油圧プレス 局所排気装置	1. 騒音施設の届出	届出（設置時）	管理部	○	
浄化槽法	法定検査	小型合併処理浄化槽	指定検査機関による検査	1回／年（報告）	総務部	○	
	保守点検・清掃		登録業者による定期点検および清掃	1回／月（清掃年1回）	総務部	○	
水質汚濁防止法 （下水道法）	排水管理 大量のオイル漏洩（緊急時のみ）	工場排水	1. 一般水域への機械油等排水発生時に 保健所、警察等必要機関への報告	異常排水発生時	管理部	○	該当なし
			2. 協議、指導に基づく対応	異常排水発生時	管理部	○	該当なし
消防法	指定数量の1/5以上は貯蔵所 の届出、管理が必要		指定数量の1/5の量	毎日（使用時）		○	管理できている
		第4類第1石油類	水溶性：80ℓ（一斗缶換算：4.4缶）	毎日（使用時）		○	管理できている
		アルコール類（60%以上）	80ℓ（一斗缶換算：4.4缶）	毎日（使用時）		○	管理できている
		第4類第2石油類	水溶性：400ℓ（一斗缶換算：22缶）	毎日（使用時）		○	管理できている
		第4類第3石油類	水溶性：800ℓ（一斗缶換算：44缶）	毎日（使用時）		○	管理できている
		第4類第4石油類	オイル類：1200ℓ（ドラム缶換算：6本）	毎日（使用時）		○	管理できている
消防法	危険物の保管	指定数量の1/5以下	1. 少量危険物保管庫の設置	新規に設置	管理部	○	
	指定数量の貯蔵		2. 消防署への届け出	新設時	管理部	○	届け書受理
			3. 保安監督者の選任	常時	管理部	○	
			4. 整理整頓（漏洩防止）	常時	サービス部	○	
労働安全衛生法	危険防止措置	シンナー使用	1. 有機溶剤の作業主任者選任	設置時(常時)	管理部	○	
			特定化学物質取扱い主任者選任			○	H27.10.29
	健康障害防止措置		2. 局所排気施設の設置（稼動）	設置時（動作時）	管理部	○	
	作業者の安全、健康に必要な措置	塗装ブース	3. 健康診断受診・環境測定	2回／年	管理部	○	外部委託
	労働災害防止措置	油圧プレス工作機械	4. 動力プレス特定自主検査	1回／年	管理部	○	外部委託
			該当作業員の技能検定・特別教育の受講	講習開催随時	管理部	○	
PRTR法	1tを越す取扱量の把握	トルエン	1. 取扱量の把握	1回／月	管理部	○	基準年
	上記の報告（大分県）	キシレン	2. 1tを超えた場合の法規制適用	適用時	管理部	○	
フロン排出抑制法	フロンガスの適切な管理	業務用エアコンの室外機	1. 3か月ごとの簡易点検	1回／3か月	管理部	○	
			2. 廃棄時には適切な業者への引き渡し	適用時	管理部	○	

法規制適用外の自主基準

法規制等	適用内容	対象設備、施設	遵守事項 （法規制/自主規制）	頻度等	実施部門	遵守評価	コメント
高圧ガス保安法	保管場所の設置	アセチレン、酸素、	（自主規制）				
（適用外）	保管基準の遵守	アルゴン	1. 保管場所の設置	設置時	管理部	○	
			2. 整理整頓（火災、爆発防止）	常時	サービス部	○	

環境法規の遵守評価の結果、法規制は適切に遵守していました。
各関連機関からの行政指導等はありませんでした。
利害関係者からの苦情はなく控訴等もありませんでした。

9.　代表者による全体評価と見直しの結果

代表者による全体評価

平成29年度を基準年とした環境経営活動目標を設定してきたが省エネ設備の導入や社用車車両の代替えなどを進めてきたことで実績値との乖離が大きくなったことで目標値の見直しを行った。しかし今年度の活動実績はすべて目標値を上回る結果となった。特に売上実績が前年比+5.8%と大きく伸ばせた。そのため環境負荷に係わる使用量が増えたといえる。当社の主たる事業は物流を担う運送業の車両をメンテナンスすることから景気等の影響をうけやすい。景気が良くなるのは好いことだが環境経営を継続していくためには活動内容の更なる見直しが必要となる。現在、これまでの年齢加給賃金テーブルを見直し能力給導入のためのプロジェクトを進めている。個々が環境経営に対する認識が高まり効率化や省力化に向けた改善提案などを評価していくことも検討している。

見直しの結果

項目	見直しの結果
環境経営方針	次年度継続しながら次年度までに再編する
環境経営目標	次年度継続しながら次年度までに再編する
環境経営活動（経営計画）	次年度継続しながら次年度までに再編する
実施体制	次年度継続しながら次年度までに再編する
マネジメント システムの仕組み	次年度継続しながら次年度までに再編する。

令和8年1月10日
代表取締役　井上　邦広